

2023 年度 大学院社会人入試
(修士課程) II 期 (12/3)
専攻科目＜小論文・外国語科目＞
試験問題
口腔保健学専攻 (修士課程)
(1 2 0 分)

＜注意＞

1. 試験開始の合図があるまでこの冊子は開いてはいけません。
2. この冊子は7ページあります。ページの脱落や解答用紙の汚れがあった場合には、監督者に申し出てください。

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題
口腔保健学専攻 120分

受験番号	
氏 名	

小論文

設問Ⅰ．口腔と全身の健康との関係について、生活習慣の観点から説明しなさい。（400字程度）

設問Ⅱ．「国民皆歯科健診」制度が導入されたと仮定して、歯科衛生士が果たすべき役割について、あなたの考えを述べなさい。（400字程度）

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題

口腔保健学専攻 120分

解答用紙

受験番号	
氏 名	

小論文

設問 I

[illegible]

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題

口腔保健学専攻 120分

解答用紙

受験番号	
氏 名	

小論文

設問Ⅱ

[illegible]

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題
口腔保健学専攻 120分

受験番号	
氏 名	

外国語科目

以下は、Evaluation of the success rate of pit and fissure sealants on first molars: 12 months follow-up study (International journal of Dental Hygiene, 20: 465-470, 2022)の抄録（研究論文の要点）および研究結果を示す表の一部です。これらを読み問いに答えてください。

Abstract

Introduction

Dental caries by far is the most prevalent concern of the preadolescents and adolescents in dental clinics. Despite the provision of local fluoride, the occlusal surfaces of teeth are susceptible to dental caries. Pit and fissure sealant therapy is a preventive method to decrease dental caries in permanent teeth. The present study aimed to evaluate the success of fissure sealant treatments of first molar teeth, at 3, 6 and 12 months follow-ups.

Materials and methods

Sixty-five children were randomly selected. The subjects had already received fissure sealants in the department of public health dentistry. Demographic data, including age and gender, sealant failure and the type of failure were recorded in the relevant checklists. Feigal criteria were used to evaluate the success or failure of fissure sealant treatments.

Results

Overall success rate was 72.3% for 1 year. Evaluation of the failure rate showed that at the 3-month interval, 20.6% of the sealants exhibited failure (57.1% due to margin discoloration and 42.9% due to lack of margin adaptation). 28.6% of the sealants failed at the 6-month (75% due to marginal discoloration and 25% due to anatomical form) and 41.2% failed at the 12-month interval (57.1% due to marginal discoloration and 42.9% due to the lack of margin adaptation).

abstract：抄録、preadolescents：前青年期、9歳から12歳の間、adolescents：青年期 occlusal surfaces：咬合面、department：部門、講座、public health：公衆衛生、Feigal：人名、歯学研究者、criteria：基準、margin：辺縁、table：表

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題
口腔保健学専攻 120分

受験番号	
氏 名	

外国語科目

TABLE 2. Failure rate of fissure sealant

	Duration (months)			Total
	3	6	12	
Success <i>N</i> (percent)	27 (79.4%)	10 (71.4%)	10 (58.8%)	47 (72.3%)
Failure <i>N</i> (percent)	7 (20.6%)	4 (28.6%)	7 (41.2%)	18 (27.7%)
Total <i>N</i> (percent)	34 (100%)	14 (100%)	17 (100%)	65 (100%)

TABLE 3. Frequency of causes of fissure sealants' failure

Cause of failure	Duration (months)			Total
	3	6	12	
Marginal discoloration <i>N</i> (percent)	4 (57.1%)	3 (75%)	4 (57.1%)	11 (61.1%)
Loss of marginal adaptation <i>N</i> (percent)	3 (42.9%)	0 (0%)	3 (42.9%)	6 (33.3%)
Anatomical form <i>N</i> (percent)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	1 (5.6%)
Total <i>N</i> (percent)	7 (100%)	4 (100%)	7 (100%)	18 (100%)

設問Ⅰ．この研究の目的は何ですか。

設問Ⅱ．この研究ではどのような条件の被験者をトータルで何人集めましたか。

設問Ⅲ．Results を日本語に訳してください。

設問Ⅳ．この研究の結論としてどのような事を考えますか。

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題

口腔保健学専攻

120分

解答用紙

受験番号	
氏 名	

外国語科目

設問Ⅰ

設問Ⅱ

2023年度大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期（12/3）専攻科目＜小論文・外国語科目＞試験問題

口腔保健学専攻

120分

解答用紙

受験番号	
氏 名	

設問Ⅲ

設問Ⅳ

選考名	大学院社会人入試（修士課程）Ⅱ期
専攻名	口腔保健学専攻

出題の意図

大学院社会人入試の筆記試験は、専攻科目（小論文）および外国語科目（英語）で構成する。本専攻修士課程のアドミッションポリシーに基づき、口腔保健学の学修・研究に必要な基礎学力を有しているかを評価することを目的として出題する。

専攻科目では、口腔保健学に関するテーマや課題について、現状や背景を適切に捉え、内容を明確に説明する力、根拠に基づいて自らの考えを述べる力、論理的思考力および文章表現力を総合的に評価する。

外国語科目では、歯科衛生学分野の英語論文を用い、研究目的・対象・結果・考察を正確に読解し、日本語で要約・翻訳・論述できる語学力と専門知識の統合的理解力を総合的に評価する。

解答のポイント

<専攻科目>

設問Ⅰ：口腔の健康と全身の健康との関連について、食習慣、喫煙、飲酒、運動等の生活習慣に着目して説明していること。生活習慣が口腔疾患や生活習慣病の発症・進行に及ぼす影響を示し、口腔と全身の健康を総合的に捉えて論理的に考察していること。

設問Ⅱ：国民皆歯科健診の意義を踏まえ、歯科衛生士が健診の実施・受診勧奨、口腔疾患の予防・早期発見、保健指導等を担う役割について述べていること。さらに、対象者の生活背景に応じた継続的支援や、多職種・地域との連携について具体的に考察していること。

<外国語科目>

研究目的、対象者の条件・人数、Resultsの数値と内訳、経過に伴う失敗率上昇への考察を、原文に即して正確かつ論理的に記述できていること。